

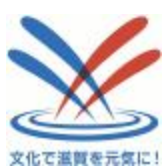
文化deけいざい 経済deぶんか ニュース&にゅーす第11号(2011年9月12日)

発行 滋賀県文化振興事業団内事務局(大津市京町3丁目4-22 旧滋賀会館内)

TEL 077(522)8369 FAX 077(522)9647

eメール [bunka-keizai@shiga-bunshin.or.jp](mailto:bunka-keizai@shiga-bunshin.or.jp)

事務局 岸野 洋



**文化deけいざい 経済deぶんか  
ニュース&にゅーす 第11号**

いよいよ

お久しぶりです。節電の夏から  
秋の入り口へです。産経新聞の朝刊1

面コラム「産経抄」は読まれていますか。達意の文章力、感心することが多いんですが、この9月11日付けは、こういう書き出しでした。

～「十年一昔」という。「十年一日」という言葉もある。漢字で書くと一字違いだが、意味は正反対に近い。「十年一昔」は、10年たてば「昔」といえるほど世の中の移り変わりが激しいことである。「十年一日」は10年たっても何も変わらない、進歩のなさをいう～でした。9・11同時テロから10年の米国人には、アフガン、イラク、それにリーマンショックなど「十年一昔」だったのに対し、日本ではどうかと言う。政権交代があり、首相が6回変わって、あの震災があっても、国を守る意識が少しも前進が見られない。こちらはむしろ「十年一日」のようだと。なんか、考えさせられるコラムでした。

文化・経済フォーラム滋賀の幹事会は8日、びわ湖ホールで開きました。大体、3ヶ月に一度の開催ですが、数えてもう第4回です。事務局を預かる立場からすれば、組織をどう動かしているか、自責の念にかられますが、何とかまあ、ゆっくり沖へ沖へ船は出ているようにも思います。この日の幹事会は「文化で滋賀を元気に！賞」の記者会見を挟んで、午後1時半から夕方5時までのロングランでした。出席は木村代表幹事、石丸さん、中村さん、馬場さん、南さんの各幹事と監事の饗場さん、それに初めての中川さんです。中川さんは、前監事だった伊藤さんと交代で、しがぎん経済文化センター社長に就任、このフォーラムの監事を引き受けていただきました。



この日のメインは、何とんでも「文化で滋賀を元気に！賞」の記者会見です。幹事会開催の円卓会議室から研修室に移って、午後3時から始まりました。記者さん、来てくれるのかなと不安でしたが、最初に京都新聞、BBCが会場へ来て、始まるまでに朝日、毎日、日経、読売、中日、それにネットの滋賀咲くブログ、地域紙のニュースもりやまを含め、何と9社もです。事務局の竹村さん、有田さんが1社ずつ回って、当日の朝にもFAXで案内発信、また、しがぎん経済文化センターさんからも電話で取材依頼をしてくれ

たおかげです。

会見の始まりは木村代表幹事の挨拶、賞の詳細説明、それと、中村経営部会長からシンボルマークの利用促進のお願い、竹村さんから文化・経済フォーラムの発足と経緯、会員



数などの説明がありました。賞の副賞である成安造形大名譽教授で、フォーラム会員の彫刻家・富樫実さん（80）の作品

については、スタッフの一人で富樫作品に造けいの深い加藤さんから作品意図、富樫先生の経歴紹介がありました。

富樫作品の副賞は大賞1点、各賞5点が会見場に持ち込まれ、最前列の席に展示されました。樗（けやき）の摺り漆仕上げで、カルチャーの「C」をモチーフとして、琵琶湖のさざ波が表現されています。文化を通じ、滋賀を明るく元気にする賞なのですが、記者さんからは▽賞の意味を詳しく▽具体的な事例を挙げるとすれば▽副賞の大きさは一など様々に質問がありました。賞の性格づけについては、これまでから幹事会、スタッフ会議で協議してきましたが、少し難解なようです。街角文化賞、景観文化賞、包装紙文化賞、ポスター文化賞、イベント文化賞、チラシ文化賞など、町中であって、さりげなく地域貢献しているような活動にスポットをあててと、説明しましたが、理解を得たかどうか、でした。

会見後、どの新聞にどのように載るか、心配でしたが、翌日の朝刊県版に京都、朝日、日経と載りました。毎日新聞も10日付けで載りました。BBCも当日夜、放送がありました。自薦、他薦で受け付けますが、報道効果があつて、12日現在で4件の問い合わせがあります。関心を持っていただいて、一安心です。会員の皆様にも是非、推薦をお願いしたいと思います。申し込み用紙は、文化・経済フォーラム滋賀の **HP** と事務局を持つ滋賀県文化振興事業団にあります。9月下旬にはチラシと一緒に送付させていただきますので、よろしく願います。記者会見の様と副賞は、写真でみて下さい。



幹事会は記者会見があつて中抜きみたいになりましたが、7つの議案と2つの報告事項は、木村代表幹事の適切な進行で予定どおり終わりました。詳細も書かないといけないのですが、議案を以下に列記します。

- ① 文化で滋賀を元気に！ 賞の募集について（竹村、加藤説明）
- ② 文化で滋賀を元気に！ シンボルマーク活用について（磯間説明）

- ③ 第2回総会について（竹村説明）
- ④ 近江屋の調査研究について（加藤説明）
- ⑤ 建築学生ワークショップ協力について（岸野、竹村、加藤説明）
- ⑥ 全国メセナネットワーク総会への参加について（有田説明）
- ⑦ 国民文化祭京都の視察について（竹村説明）

報告事項は▽文化経済サロンの第1回開催と今後について（江島報告）▽入会者状況（竹村報告）などでした。議案内容は改めて報告したいと思



いますが、近江屋の調査研究では京都新聞の三好記者がホームページを見て、実務を担当する加藤さんに取材、大きな記事になりました。幹事会でも、屋号とし

て近江屋の研究は県内の大学でもやったことがなく、意味あることと改めて評価がありましたし、紙面に載って▽将来、サミットを開催するのか▽出版予定は一など問い合わせがあります。まだ緒についたばかりですが、嬉しいことです。来年2月11日、琵琶湖ホテルで開催します第2回総会は「文化で滋賀を元気に！賞」の表彰がメインになりますが、基調講演をどうするか、交流会へ向けて演出はどうか一など事務局で詰めていくことになりました。宿題というか、重責というか、気持ちせわしくです。総会に合わせ、会員さんの継続、新規会員の掘り起こしなどの作業もあります。竹村さんがまとめてくれた市町別の会員入会状況は別表のとおりです。

議案にあります**建築学生ワークショップ滋賀2011**は最終日の11日に事務局の竹村さんらが参加しました。以下、写真付きの竹村報告です。読んでください。

「このワークショップは、建築・設計や空間デザインを目指す大学生たちが毎年集まり、その会場にふさわしいテーマで建築物やモニュメントなどの作品を短期間で制作するというものです。大学生たちは、竹生島について、事前にレクチャーを受けたり調査を行い、島へ資材を運び込み、9月7日から作品の制作をはじめこの日を迎えました。この日の参加者は、学生たちや審査員、一般県民等を含めて約200人くらいでしょうか。

市町	個	団	法	計
大津	65	13	25	103
草津	9		3	12
長浜	7	4	4	15
彦根	7	2	4	13
守山	7	1	1	9
東近江	5	2	1	8
近江八幡	3	1	4	8
甲賀	3	5		8
湖南	3	2		5
高島	3	3		6
栗東	3	1	1	5
愛荘	2	1		3
竜王	2			2
野洲	2			2
愛知川	1			1
多賀	1			1
豊郷	1			1
日野	1			1
米原	1	1	1	3
計	126	36	44	206
京都	10	2	1	13
大阪	3		2	5
奈良	1			1
東京	1			1
計	15	2	3	20
合計	141	38	47	226



琵琶湖汽船から提供された客船「ピアンカ」に乗船し、竹生島に午前11時30分頃到着、学生たちの熱のこもった力作8点を見せていただきました。

午後1時30分頃竹生島を後にし、大津港への到着まで、8つの班からのプレゼンテーションと審査員から作品への講評がありました。大津港に着いた午後5時頃から表彰式が行われ、最優秀作品賞、最優秀賞、優秀賞、奨励賞の計4作品が決定しました。最後に、



竹生島宝厳寺の峰管主がご挨拶されました。最初はできるかどうか心配でしたが、学生たちと



一緒に関われたことを感謝しておられました。文化・経済フォーラム滋賀もささやかながら、応援させていただくことができ良かったと思っております。学生たちには、様々な方々に支えていただいたことを忘れず、この経験を

生かし、将来の夢に向けて邁進してもらいたいです」

竹村写真は沢山でしたが、このうち、雰囲気の伝わるようなのを選んで、掲載しました。建築学生ワークショップはフォーラムの副代表幹事で琵琶湖汽船の中井社長が、実行委員会の熱い思いに応え、協賛金集めのアドバイスなど全面支援がありました。AAF作成のペーパーには、琵琶湖と竹生島、さらに琵琶湖汽船との関係などが、木村代表幹事と中井社長のインタビュー記事として載りました。以上です。(文責・岸野)